埼玉県の経済情勢報告

令和８年11月５日

財務省関東財務局

お問い合わせ先
関東財務局総務部経済調査課
電話番号　048－600－1161

1. 総論

【総括判断】「県内経済は、緩やかに回復しつつある」

項　　目	前回（8 年 7 月判断）	今回（8 年 10 月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに回復しつつある	**緩やかに回復しつつある**	→

（注）8 年 10 月判断は、前回 8 年 7 月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。

【各項目の判断】

項　　目	前回（8 年 7 月判断）	今回（8 年 10 月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	**緩やかに回復しつつある**	→
生産活動	緩やかに持ち直しつつある	**緩やかに持ち直しつつある**	→
雇用情勢	緩やかに持ち直しつつある	**緩やかに持ち直しつつある**	→
設備投資	8 年度は増加見込みとなっている（全規模・全産業ベース）	**8 年度は減少見込みとなっている（全規模・全産業ベース）**	↘
企業収益	8 年度は増益見込みとなっている（全規模ベース）	**8 年度は増益見込みとなっている（全規模ベース）**	→
企業の景況感	「下降」超となっている（全規模・全産業ベース）	**「下降」超となっている（全規模・全産業ベース）**	→
住宅建設	前年を上回っている	**前年を上回っている**	→
公共事業	前年を下回っている	**前年を下回っている**	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待されるものの、中東情勢の影響を注視する必要がある。また、金融資本市場の変動の影響などに注意する必要がある。

2. 各論

■　個人消費　「緩やかに回復しつつある」

コンビニエンスストア販売額は前年を下回っているものの、百貨店販売額、スーパー販売額、ドラッグストア販売額、家電大型専門店販売額、ホームセンター販売額は前年を上回っており、全体として前年を上回っている。乗用車の新車登録届出台数は、普通車、小型車、軽乗用車いずれも前年を上回っている。宿泊や飲食サービスなどは、緩やかに回復しつつある。

このように個人消費は、緩やかに回復しつつある。

（主なヒアリング結果）

➢ イベント効果とレストランの新規オープンによるファミリー層の来店客数増加に加え、天候不順による雨具等の購入需要も重なり、売上高は前年を上回り堅調であった。（百貨店）
➢ 天候不順の影響もあり客数は前年割れしたほか、物価上昇の影響による節約志向により少しでも安い商品を購入する傾向がみられるものの、商品価格の上昇により客単価が上昇したことで売上高は増加。（スーパー）
➢ 地震や豪雨の影響で、トイレタリー用品や水、缶詰などの売上げが伸びたほか、物価上昇に伴い商品単価が上昇傾向のため、売上高は前年を上回っている。（ドラッグストア）
➢ 天候不順による在宅時間の増加の影響もあってか EC 販売での美容、健康家電などの小物家電が好調で、全体の売上高の伸びをけん引している。（家電量販店）
➢ 自動車は生活必需品としての性格が強く、買い替え需要は底堅く推移しており、また、新型車投入効果もあって来店客数・受注ともに増加した。（自動車販売）
➢ 雨の日が多かったことで 9 月の売上げは若干減少したものの、低価格帯での商品提供のため需要は旺盛で引き続き好調。（飲食サービス）

■ 生産活動 「緩やかに持ち直しつつある」

生産を業種別にみると、輸送機械などが減少しているものの、化学や食料品などが増加しており、緩やかに持ち直しつつある。

➢ 夏場のメイク崩れ防止のメイクアップミストが好調であり、生産量が増加。（化学）
➢ 市場の商品需要に基づいた今後の需要に向けて工場稼働率が上昇しており、生産量が増加している。（食料品）
➢ 7 月発生の熊本地震でサプライヤーが被災したことにより部品の供給が滞り、工場稼働率が低下し、生産量が減少した。（輸送機械）

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直しつつある」

企業は人手不足の状況にあり、有効求人倍率はおおむね横ばいとなっているものの、新規求人数は増加している。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。

➢ 工場作業員の採用は以前からの課題となっており、従来は高校新卒者を中心に採用していたが、大学進学率の上昇などにより、従前と同様の採用手法では十分な人員を確保できず、工場作業員の高齢化が進行している。（製造）
➢ 営業、サービス、メカニックのいずれも不足している状況で、特にメカニックについては日本人採用が年々困難になっていることから、専門学校と連携し、外国人留学生の採用を積極的に進めている。（小売）

■ 設備投資 「8 年度は減少見込みとなっている」（全規模・全産業）「法人企業景気予測調査」8 年 7-9 月期
○ 8 年度の設備投資計画は、製造業、非製造業とも減少見込みとなっている。

■ 企業収益 「8 年度は増益見込みとなっている」（全規模）「法人企業景気予測調査」8 年 7-9 月期
○ 8 年度の経常利益は、製造業、非製造業とも増益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「『下降』超となっている」（全規模・全産業）「法人企業景気予測調査」8 年 7-9 月期
○ 先行きについては、8 年 10-12 月期に「上昇」超に転じる見通しとなっている。

■ 住宅建設 「前年を上回っている」
○ 新設住宅着工戸数をみると、持家、貸家、分譲住宅のいずれも前年を上回っている。

➢ 需要は大幅に落ちているわけではないものの、これ以上金利が上がる前に購入しようとする層と様子見する層が相殺しあっているほか、最近は賃貸住宅に流れる動きも出始めている。（住宅建設）
➢ マンション価格の高騰で需要が分譲戸建てや注文住宅に顧客がシフトしている状況であり、分譲戸建ては、7 月までは好調に推移したものの、8 月は苦戦し、9 月は回復基調にある。（不動産）

■ 公共事業 「前年を下回っている」
○ 前払金保証請負金額をみると、国、独立行政法人等、都県、市町村のいずれも前年を下回っている。

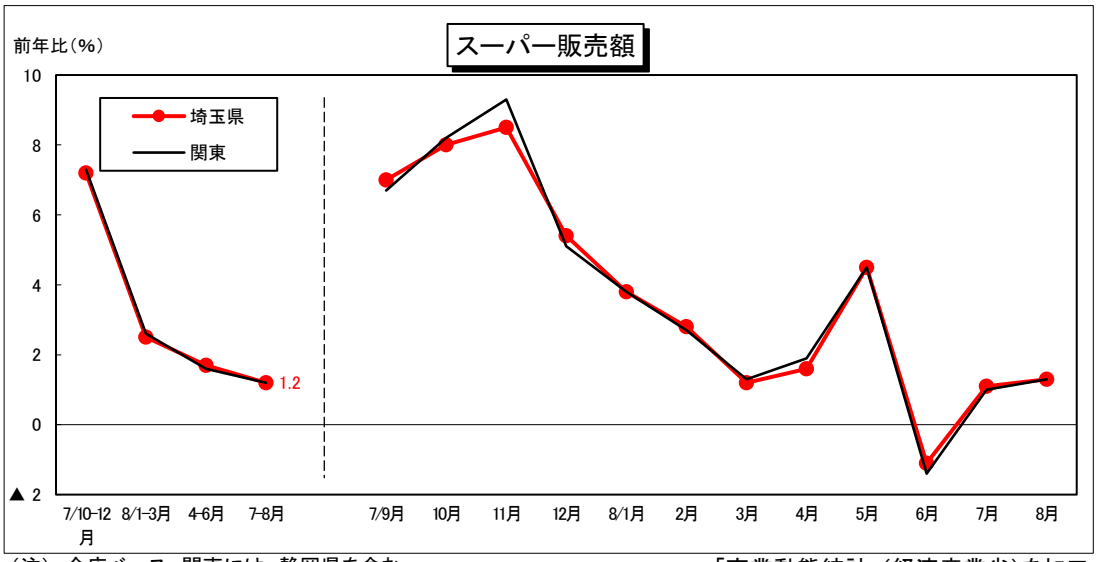
埼玉県の経済情勢報告

資料編

※掲載した経済指標等については速報値を含む。
※資料中の「管内」とは関東財務局が管轄する１都９県を示す。

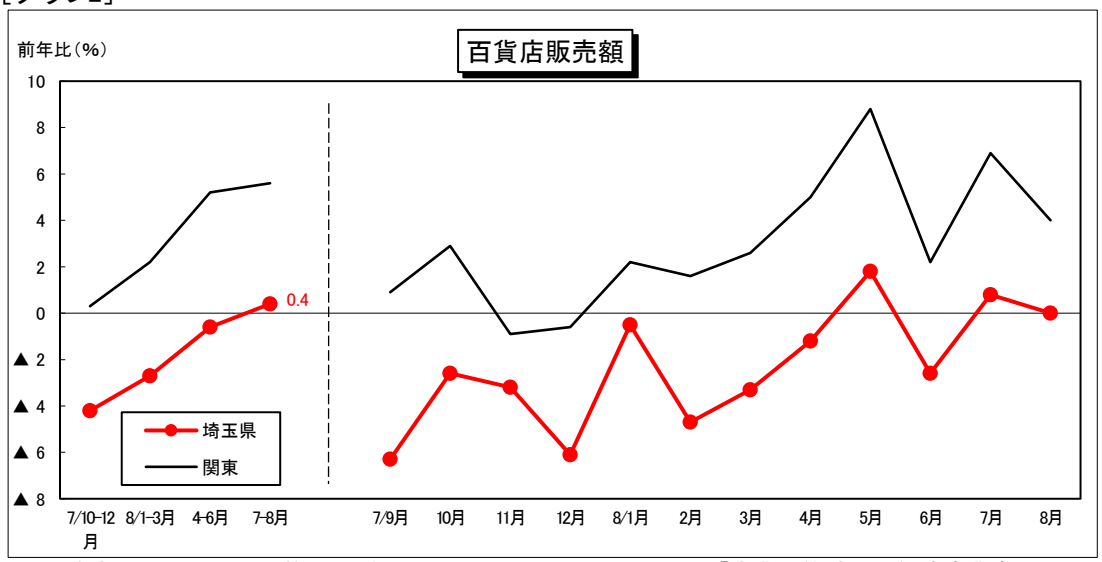
1.個人消費

[グラフ1]



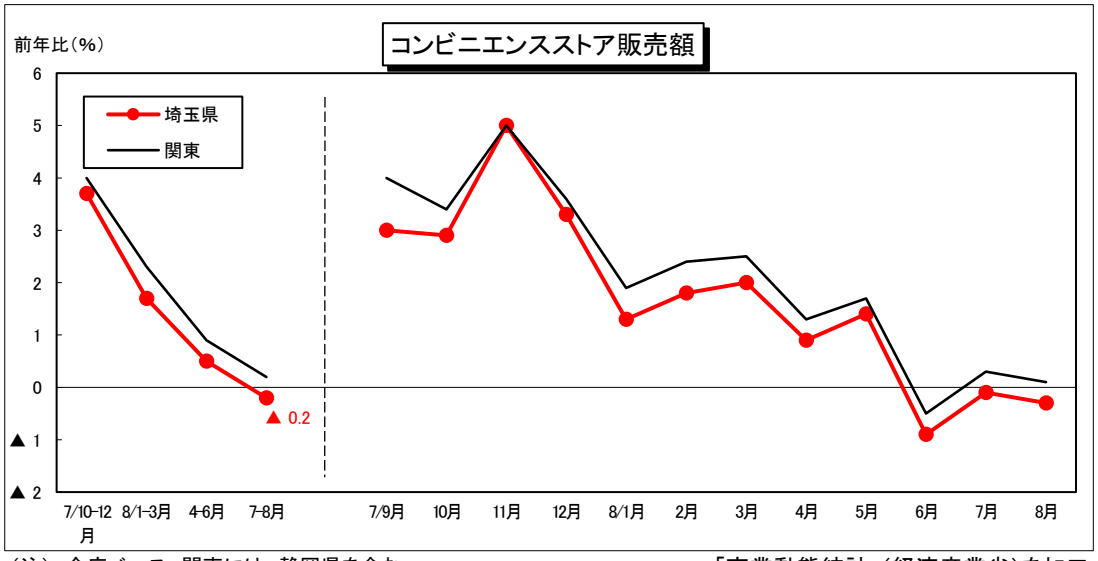
(注) 全店ベース。関東には、静岡県を含む。　「商業動態統計」(経済産業省)を加工

[グラフ2]



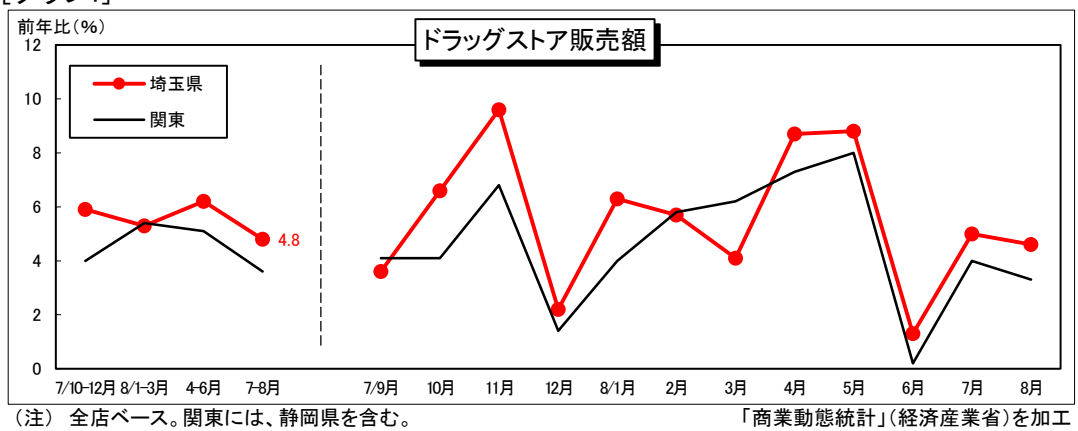
(注) 全店ベース。関東には、静岡県を含む。　「商業動態統計」(経済産業省)を加工

[グラフ3]



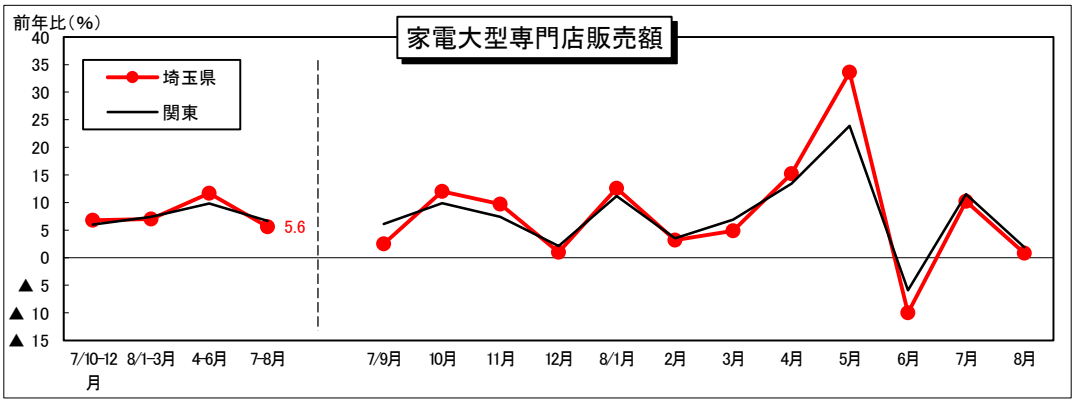
(注) 全店ベース。関東には、静岡県を含む。　「商業動態統計」(経済産業省)を加工

［グラフ4］



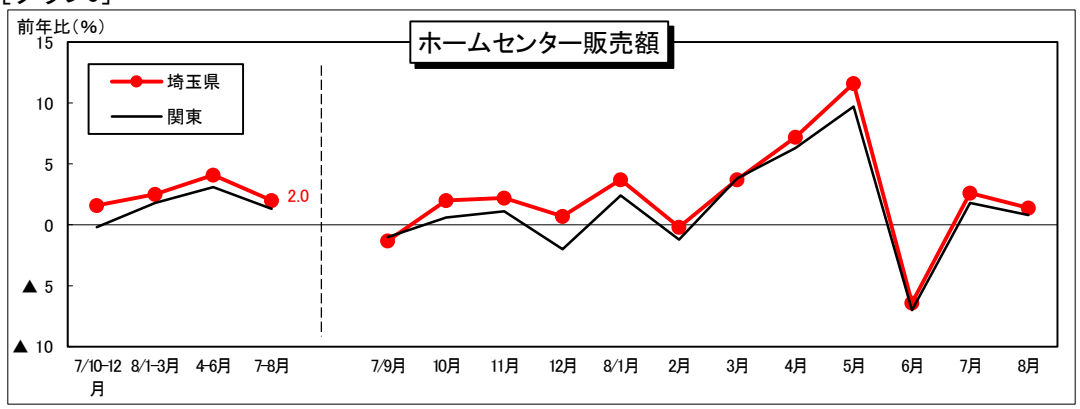
（注） 全店ベース。関東には、静岡県を含む。　　「商業動態統計」（経済産業省）を加工

［グラフ5］



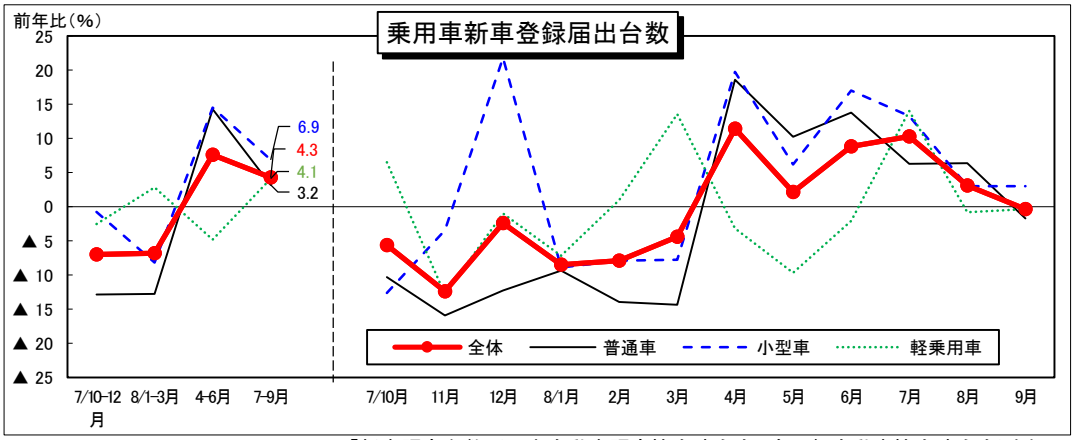
（注） 全店ベース。関東には、静岡県を含む。　　「商業動態統計」（経済産業省）を加工

［グラフ6］



（注） 全店ベース。関東には、静岡県を含む。　　「商業動態統計」（経済産業省）を加工

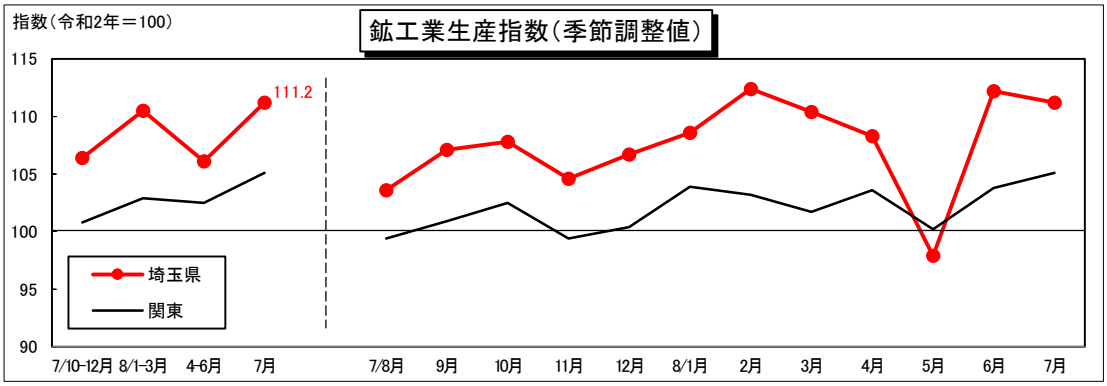
［グラフ7］



「新車販売台数」（日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会）を加工

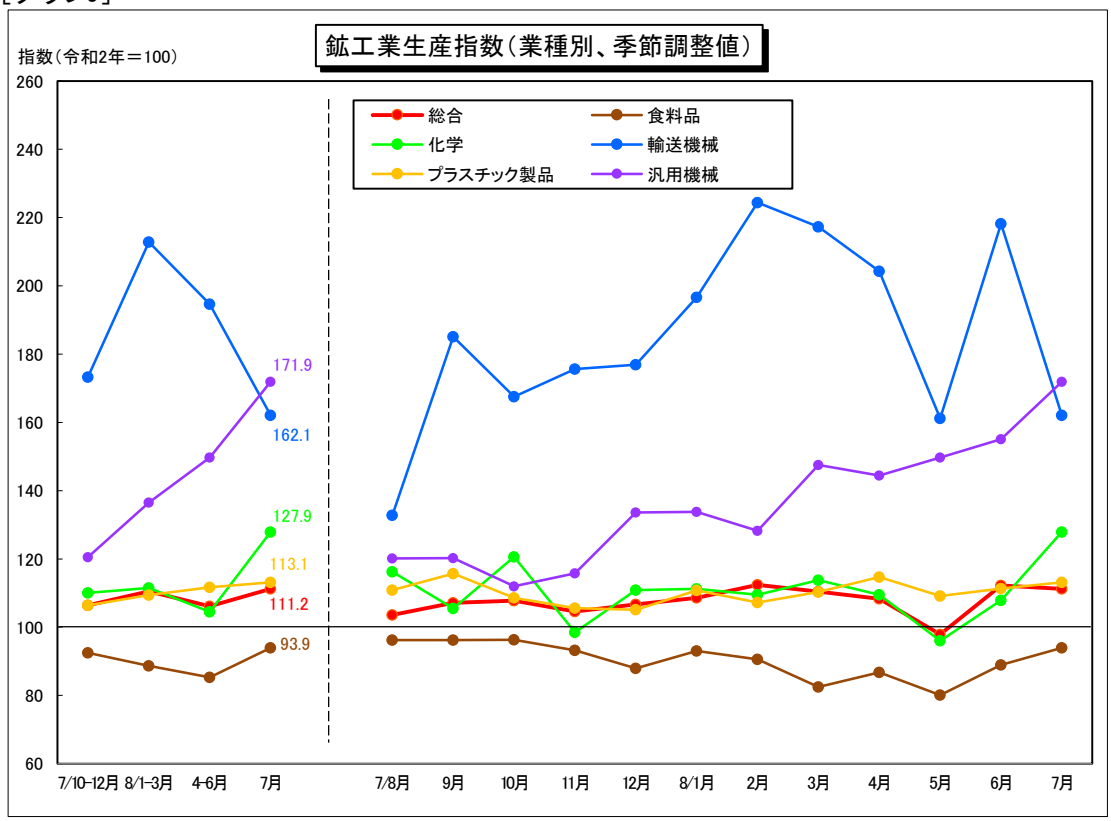
2.生産活動

[グラフ8]



（注） 関東には、静岡県を含む。　　「鉱工業指数」（埼玉県、関東経済産業局）を加工

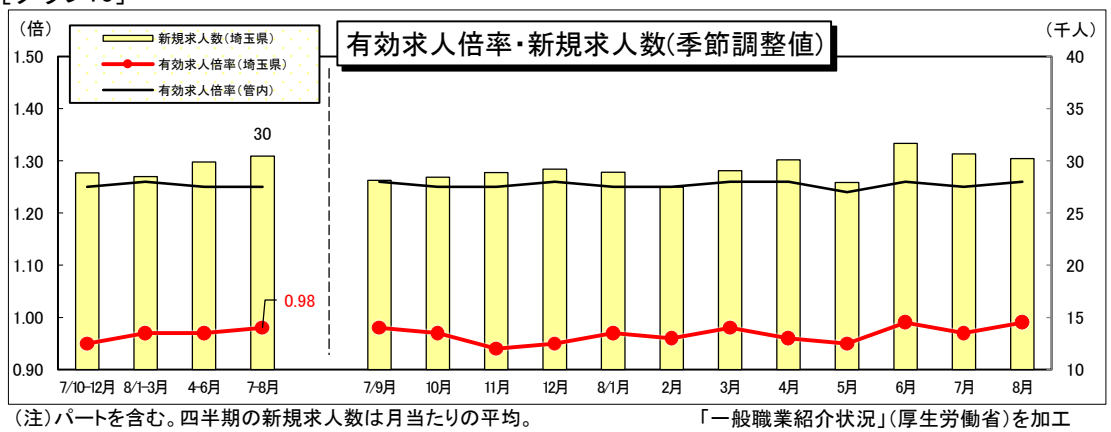
[グラフ9]



「鉱工業指数」（埼玉県）を加工

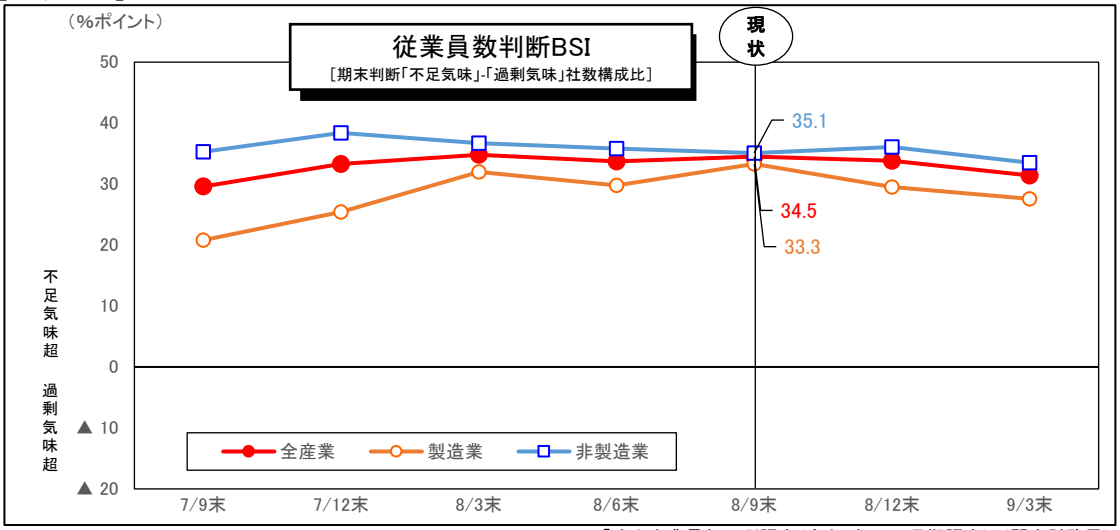
3.雇用情勢

[グラフ10]



（注）パートを含む。四半期の新規求人数は月当たりの平均。　　「一般職業紹介状況」（厚生労働省）を加工

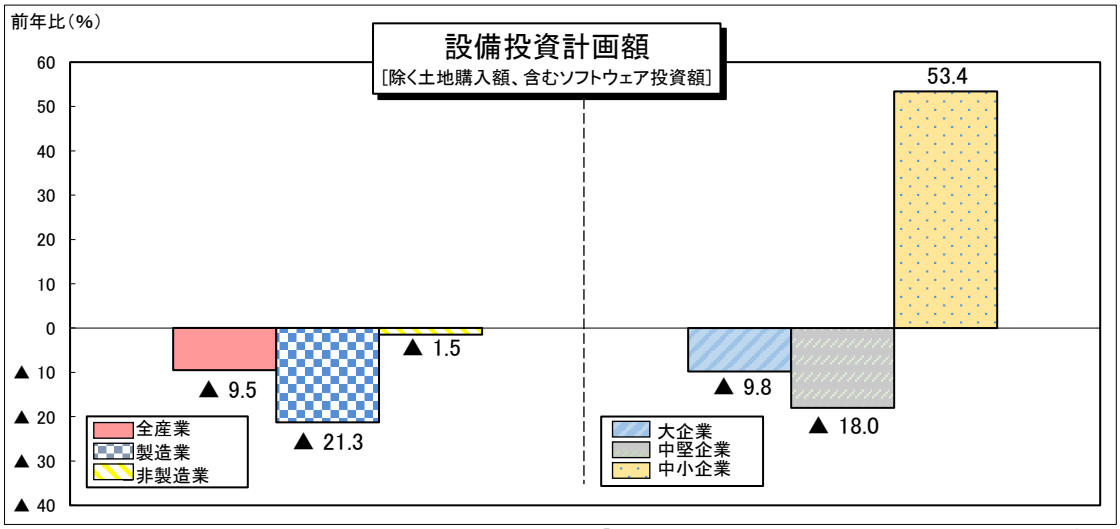
［グラフ11］



「法人企業景気予測調査（令和8年7～9月期調査）」（関東財務局）

4.設備投資

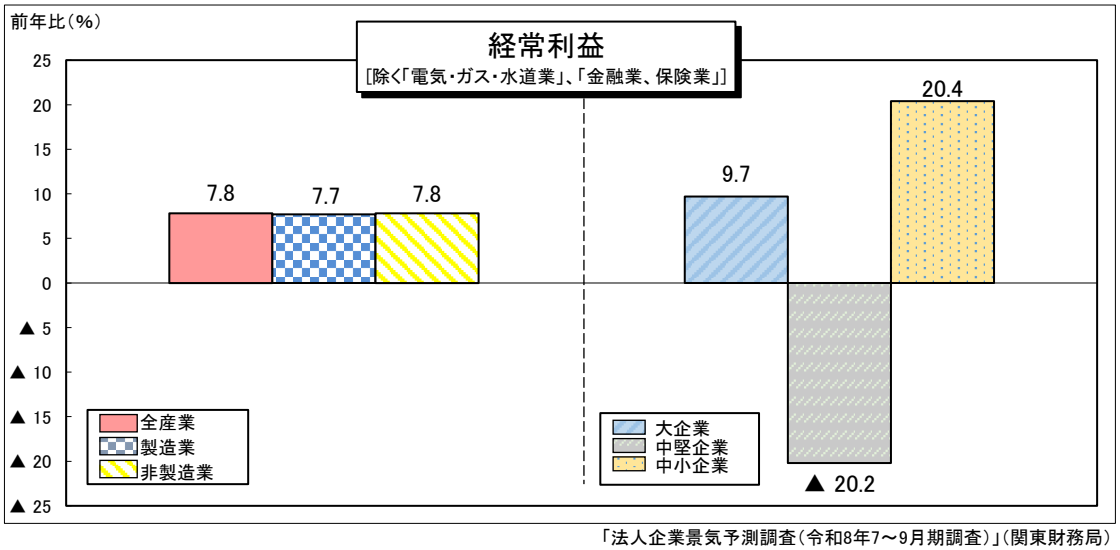
［グラフ12］



「法人企業景気予測調査（令和8年7～9月期調査）」（関東財務局）

5.企業収益

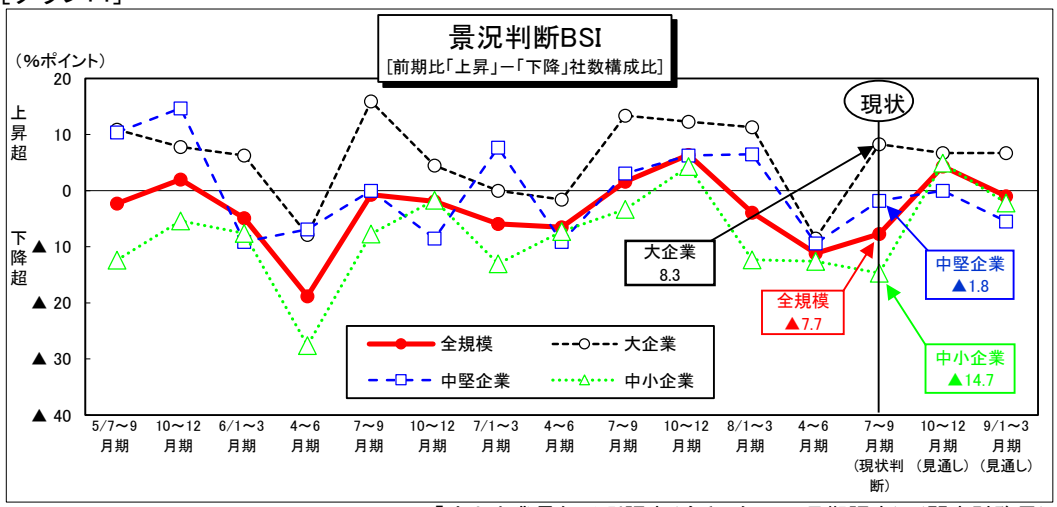
［グラフ13］



「法人企業景気予測調査（令和8年7～9月期調査）」（関東財務局）

6.企業の景況感

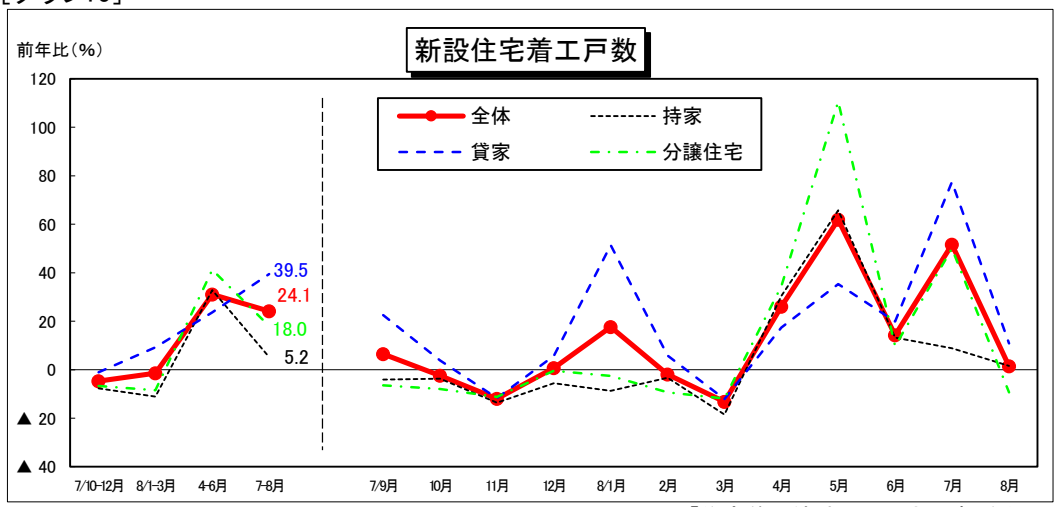
[グラフ14]



「法人企業景気予測調査（令和8年7～9月期調査）」（関東財務局）

7.住宅建設

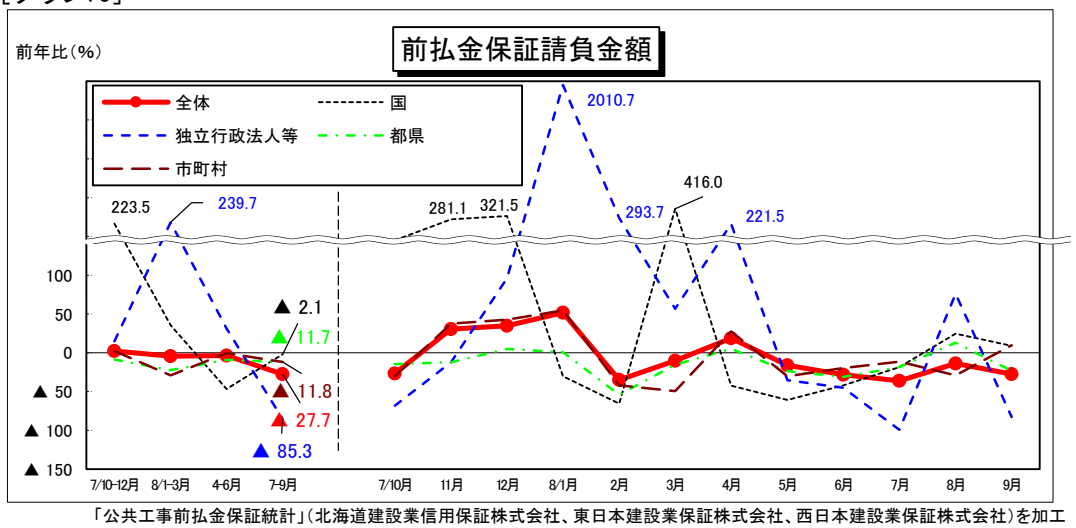
[グラフ15]



「住宅着工統計」（国土交通省）を加工

8.公共事業

[グラフ16]



「公共工事前払金保証統計」（北海道建設業信用保証株式会社、東日本建設業保証株式会社、西日本建設業保証株式会社）を加工